



## 中高一貫校について

横須賀市立総合高校のあり方の検討会で、中高一貫校への移行が議論されています。もちろん、まだ決定したわけではありません。この件について、みなさんからも様々なご意見が私の元に届いています。そこで参考の為に、一月の視察の中から、中高一貫校関連の報告をさせていただきます。

☆☆☆☆☆☆

現在、神奈川県下の中高一貫校は29校。うち、公立（県立）は4校です。  
（中等教育学校は2校、連携型中高一貫校が2校）



まず「神奈川県立相模原中等教育学校」へ行ってきました。

学校案内の表紙にあった教育理念は「しっかり学び、じっくり育て、ゆっくり探る」

平成21年に新入生を迎え、26年に1年生から6年生がそろう。現在は、中等4年生までと、相模大野高校の2・3年生が、一緒に学んでいます。母体校・相模大野高校と中等教育学校が一

体化した教育活動を展開しています。ほぼ全クラスの授業を参観しました。

めざす生徒像は

- ・これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備える生徒
- ・豊かな人間性とリーダーシップを備える生徒
- ・よりよい社会の構築に貢献できる生徒

6年間を、基礎期・充実期・発展期の3期に分け、独自のシラバスで教育を行っています。英語の教材は、「プログレス」。公立でこの教科書を使っているのを見たのは初めてです。言語中枢を育てるため、音声による学習を重視。

生徒は、自宅学習でSDリピーターを活用し、本文の暗唱を行います。

結果、英語を話すことに抵抗はなく、座間キャンプのミドルスクールの生徒たちとも楽しく、英語で交流しているそうです。

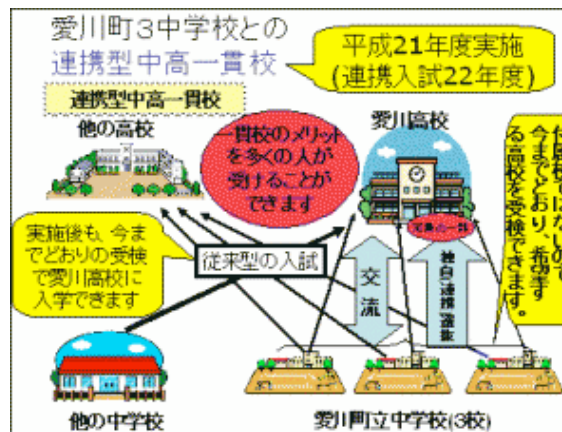
その他の教科でも、相模原中等独自のカリキュラムがズラリ。

また、生きる力を育む体験活動と探究活動をするためのキャリア教育も積極的に取り入れています。

社会に出たときに求められる課題解決能力も、生徒たちは身に付けて学び舎を巣立ってほしいという先生たちの気持ちが伝わってくる調査でした。

設置者の異なる（町立と県立、国立と県立など）中学校と高校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流の連携を深めることによって中高一貫教育を実施するのが「連携型中高一貫校」です。

愛川町立中学校（3校）とともに、愛川町の多彩な教育資源を活用し、地域に密着した教育活動を行っている、**県立愛川高校**を視察してきました。調査に行った日は授業はなく、野球部の皆さんの元気な声が校庭に響いていました。



今年30周年を迎え、平成22年から連携募集を始めました。連携した教育活動を通じて、学びながら中学生や地域と交流し、定員の20%を連携中学校から募集しています。また、教職員の人事交流や部活動の交流も行っています。（左の図は愛川高校のHPから引用させていただきました。）

学習面で生徒たちが達成感を感じているのが、「i-Basic」。

これは、基礎の基礎に立ち返るドリル形式の授業です。（5教科）

3中学の先生が中学校でのつまづきをフォローしてくださいます。

このような交流により、中高間の情報交換が密になり、中高の接続のギャップを教員が把握、指導に生かすメリットがあるそうです。



伝統文化にも力を入れています。

部活動ではなく、授業に取り入れています。地元の伝統行事・三増の獅子舞については、授業参加者が諏訪神社や近隣の施設で発表を行っています。和太鼓は、部活動にも発展し、地元の皆さんに愛され、1/18に活動の様子がテレビ神奈川で紹介されました。あいさつ運動から始まった基本的な生活の重視。（生徒指導を通しての人間教育）

成果は学習習慣の確立と充実につながったそうです。

先生方は、「生徒にもっともっと寄り添っていきたい」、そして「元気に卒業し、社会人として積極的に活躍して欲しい」とおっしゃっていました。